



「さそり座」のはなし

夏の夜 8 時ごろ、南の空の低い位置に赤く明るい星が見えます。これが、さそりの心臓「アンタレス」です。名前には「アンチ（反対）」と「アーレス（火星）」の意味があり、「火星に対抗する星」とされます。黄道上にあるさそり座の近くを火星が通ると、赤い火星とアンタレスが並んで輝くため、そう名付けられたといひます。

アンタレスは肉眼で見てもとても赤く目立つ星で、日本では昔「赤星」と呼ばれ、酔った人の顔にたとえ「酒酔い星」とも呼ばれていたそうです。



さそり座

南の空の低い位置で、天の川に S 字の形の星の並びを見つけたら、それがさそり座です。しっぽをくるんと巻いた形がさそりそっくりです。アンタレスは本当に心臓のようにさそり座の真ん中で輝いています。日本の昔の人々はこの S 字を「魚釣り星」と呼んでいました。天の川に釣り針を垂らしているように見えたのでしょね。

さそり座にまつわるお話はいくつかありますが、中でも宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する「さそりの火」は有名です。

イタチにおそわれた 1 ぴきのさそりが井戸に落ちて死ぬ間際、こう願ひます。「ああ、ぼくは命をムダにってしまった。どうせ死ぬなら、誰かのためにこの命を使えばよかったのに。どうか神さま、こんど生まれかわるときは、みんなのしあわせのために、この命を使わせてください。」その願ひが天に届き、さそりはアンタレスとなって空から命の大切さを伝え続けている——というお話です。

夏の夜空を見上げたとき、この赤い星が語る思いにぜひ耳を傾けてみてください。